WASON
HQ
1104
J74+

驛遞局認可
明治二十年一月二十九日刊行

每土曜日發兌
一冊正價五錢
府內無郵送稅

女學雜誌

第四十九號

東京 女學雜誌社

Jan. 188
no.

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

The Women's Magazine

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 49. JANUARY 29TH, 1887.

第四拾九號

EDITORIAL: Schools girls as Wives.

LEADING ARTICLES: Prof. R. Yatabe's Lecture on "The Female Education"; Ladies Amusements in Japan by Mr. T. Funakoshi.

MISCELLANIES: The Model Style of Woman Epistolary Writings; Woman's Dress: No. II.

BIOGRAPHIES: Mrs. Susanna Wesley; Mrs. Eureka: No. IV.

CORRESPONDENCES.

GENERAL NEWS.

ADVERTISEMENTS.

●社説　女生徒の妻

●論説　矢田部良吉君女子教育論講演筆記(三)○日本婦人遊戯論第一章(我邦の女子に遊戯を奨む)船越鼎太郎

●叢話　女の文餘話○女の衣裳(二)

●佳傳　ジヨンエスレーの母○ゆりか物語(四)

●寄書　妹と脊鏡を讀む(石橋忍月)○女學校教員に告げ且つ女生徒に動植物學をすゝめ参らす(芙蓉軒)○じやがたら文

●新報　六則　●廣告

●珊瑚の玉　(十八)

○レーノルド曰く子供の身振りは元と皆な美しきものなり然るに彼の踏舞場に出入してより則ち虚飾の様態をなすなり

○シドチースミス曰く流行につるゝ女の氣儘を奇しむ勿れ彼等は譬ふるに猶ほ乳と菓子とを食とする小犬の如き者なり

○ジヨンソン曰く女の説教するは犬が後足を以て歩むが如し元と甘く行く可らず而も多く之を行ふを見るなり

○第一世ナポレオン曰く佛蘭西を改良するに最大一の必要なるは即ち善良の母なり

○ローソー曰く世界は女と云へる書物に似たり女に何如ほどの智識あるやを知らんとせバ讀みて而して得べきにあらず只だ之を觀察するにあるなり

○キングスレー曰く全世界中尤も美なるものを何ぞと云へバ即ち母が其兒を抱くの風なり古來幾多の著名ある畫工ありと云へど未だよく之を寫し盡したるはあらず彼のラーフエルの如きは蓋し類なきの美術家なり思ふに斯程に畫才を得たるの名手なからん然るに多年此の風姿を寫すと數ふ可らず一見するに皆な美畫なり然も自ら云ふ遂によくその躰を寫し得たるはあらずと

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌第四拾九號　明治二十年一月廿九日

● 社說

○女生徒の妻

我が文部省は夙に數多の女學校女子師範校等を設けさせられ近來は又高等女學校と云へるを置かせて數多の女生徒を養成さる民間には公立私立の女學校全國中に散在して其數少からず外國の宣敎師にして其金を投じて女學校を設け現に數多の女子を敎育する所も亦甚だ多し而して此等の學校を卒業し又は中途に其業を止めてそれ〴〵に出校し銘々相應の好緣ありて人に嫁したるもの亦固より多きとなり因て吾人は斯る嫁御寮が世に待さるゝの景況何如んを知らんとして早くより其探報を心掛たるがたゞ今日迄の通知を案內として考ふるときは茲に尤も失望すべきもののあるを見たり

先づ昔し女生徒たりし方々を迎へたる家の舅姑たらんものゝ申すは嫁の行儀作法あら〳〵しくして物の言ひ樣女らしからず私共に對して起伏の會釋するとだも知らざるは先づ之を恕するとも客來の時有ふれたる挨拶をだも爲す能はず取なしの愛想なきと言語同斷なり然るに稍ともすれば出入の者に議論めきたるとを申し當今の形勢は男女同等なりなど言ひ張る樣なり斯ては平素悴に對しての處置何如あるべき平眞に思ひ遣らるゝ程なり成程悴が何々の洋書を取れと云ふとき私共には其題名すら分らず內の嫁は此樣の時こそ便利なり新聞雜書の一つ二つは乍ち讀通して公事までかにかくと承知するは甚だ利口らしくあれども親類への見舞狀かくに其文躰を辨ぜず遺物の水引は赤きを何れにすべきかをも心得ざる次第なり左れば下女の橫着を制するとも得ならずして反て時々は友人らしき物言をかはし八百屋肴屋には高價を言はれて相當に其値を定るとも能はず洗濯は懶しとして汚れ物戶棚に堆く裁縫は肩の凝るものとして多くは仕立屋に任す月々の入費に莫大の相違なり然る故に悴よ一人の女の朋友を招たりと思はゞ左程に不足とも思ねど若し之を嫁として見るときは昔し妻たらん者の心得としたるとの一だも得盡さず畢竟は書生として讀書するの術を學びたりとも人の家を修るとを心得ざるがゆえ也大凡そ今の嫁を定めんとするものはゆめ〳〵女生徒を迎ふ可らずとあり

右舅姑の苦情として申す處は固より一々其理由あるにあらず世話にも嫁と舅姑とは其間の平和なりがたきを常として斯

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

る類の不平を全く消滅せんとは得て望むべきにあらずと雖も生徒を迎へたる家々の不平はたゞろの舅姑にのみ存せず時としてはかの夫なるものにも於ても亦殆んど相似たる不滿足ありと云へども之れ決して輕ろ〻しく見做すべきものにあらざるべし現に夫たるものゝ中往々ろの不滿足を友人に語るものありて云ふ結婚前女生徒を淡泊なりとして滿足したるは反てこれろの愛想なきを見誤りたるにてあり其學力あるを擇びたるが反てこれ朝夕の慨樂なき所以となれり抑も自由は内にありて窮屈は外にあるを良とす一日の辛苦を伸して生々たる愉快を得るはたゞ家内に在るの時なるべし然るに妻の取なし粗朴にして滑ならざる所多ければ我心上下を着けて安坐するの思あるとあり偶ま事業の失敗に心落して家に歸れば細君の尋問に一々經歴を談じて反て失敗の理由を説明さる不愉快彌よ甚しと云ふべし然か而あらず兩親との折合宜しからずして下女の苦情時々は耳に聽こえ月々の計算は勘定大方整はずして一家の經濟は寧ろ放擲さるゝの嫌あり尚ほ親戚の妻女は古風なりとして昔の學校友達をのみ重んずれば身寄の交際は自ら疎遠となりて書生連の評判甚だ宜く食客志きりに出入して費用亦少からず元來家内に閉居するを嫌ひて時々の外出は身躰の衛生に欠く可らずと云ふ之れ尤の申分と云へども遊樂を外に求るの習慣は自ら一家に損ありて家内の折合いよく熟せず當今の時勢を以て之を考ふれば吾々の妻は矢張り古風の娘孃をよしとし學力の足らざる世情に迂遠なる等は寧ろ其從順にして温和なる女德を以て或は償て尚餘あるべしと也

如此き事例を擧て其細君を不滿足とするの夫は固より亦た夫たるの責を得盡したるものにあらず其頭腦中尚ほ男尊女卑の舊習を存して妻を婢女の如くあいしらはんとの望未だ去らざるに由る故に女生徒諸君を嫁に迎へて一家の和樂なきを訴ふるものあらば其舅姑其夫其親戚にも皆それ〲の心得違あるとは言ひ爭ふ可らざるものありと雖も然れども今只其細君たるものゝ上に就て之を言へば實際之にも亦斯る不滿足を蒙るの欠點あるは論なきとなり特に其進退居作の優美ならざる其言語應接の温和ならざる或は家事經濟に暗して無用の外事に明なる姑舅親戚に關はるの仕來りを知らずして交際万端をたゞ書生流儀となさまく欲する等十目の見る所大抵之をその通弊として認る者あり故に今の女生徒中一生獨居して身をミス某と申すに安んぜんとする人々は之を問はず苟くも他人に嫁して玆に快樂なる家族を作らんとを望むものは到底今の如

き風躰を以て安んじ玉ふべきにあらず其心得とその習慣とを改めて更によく眞正の女徳を養ひ尚且つ當今の事情に相應するやう修練せざる可らざる也

然れども如此きは素と女生徒諸君にのみ求むべきものにあらず一は當今の各女學校敎育の處置に完全ならざる所あるが故にして現今女流敎育の任に當る者に對し亦其注意を仰がざる可らず熟ら惟るに男女はもと社會に立て異樣の事業を行ひ一家に內外の務を分つべきものあり故に其德とし其風采とし其心得とする所も亦た相違する所あるべきは固より明白の事理なるべし然らバ他日社會に立て一男子たるの事業を行ふべき男生徒を敎育するの法方今の如くにして可ならん歟之と同樣なる方法を以て女生徒を敎育するの女學校ハ既に其處置を誤りたると甚だ明白ならん一例を擧て之を言ハゞ今の學校の敎制よく男子をして活潑剛强ならしむる乎之と同樣の敎制を施行する女學校ハ則ち偏屈粗朴の女子を造り出すものあり故に男女兩生合敎の可否論は今暫く之を度外に置き凡そ特別に男學校と云へるものを設置せんと欲せバ其結構處置必ず女學校に於けるものと相違する所なかる可らざる也然るに今の女學校は敎課の順序、食物の撰擇、敎授の心得、校舍の結構、及び寄宿の模樣等大抵男學校と同樣にして多く異る所あるを見す之れ大なる失策と云ハざる可らず、故に斯る女學校の生徒諸君が出て人に嫁し多く彼此の不滿足を來すことを免れざるものハ其原因大抵女學校の敎育宜きを得ざるに因ると云ふものあるも一應之を尤の異論として受納せざる可らざる也故に吾人は女學校敎育の方法に關し多少の卑考を吐露して敢て當路者の參考に供せんと欲するに當り先づ第一に改良を要すべきものと認るは即ち今の女學校の寄宿舍これ也

● 叢話

○女のふみ餘話

開闢以來最初に文書を認めたるは恐らく女ならん現今尤も面白き手紙を尤多く認るも亦女流なるべしとは文章論者の夙に申す所なり左れば演說講談の一技は寧ろ男子に讓るべし文認むる藝能に至りては則ち女性に於て優等の地に立んことを切望すべき理由あるなり此故に吾人は本誌第卅三及び卅四の兩號に於て女の文と題する二篇の叢話を揭げ多少の實例を示して其認め方を論ろひたり大意ふみの目的は志す所を有の儘に盡して彼の人に思を通じ以て用事のすじを便じ又は親愛の心を

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

深くするにあり左ればすら〳〵と物清げに書流したるが必しも其法を得たるにあらず忘れねばこそ思ひ出さばなど賢しらに言ひ廻さんが上乘に達したるにあらずよし人には愚かしと見ゆることをも底はかとなく書つゞけて只だつくろはぬが專一なりと述べたることなり

然れども只有の儘に書ながして特更につくろはざれと云へるは必しも底はかとなく書つゞけたる長文ならでは味あらずと申したる心にはあらず然るに當時短文もて意をつくすの妙趣を説いて其實例を示すことを爲さゞりしが故に女の文はたゞ山鳥の尾のなが〳〵と認るが宜しからん者と見誤り玉へる方もあらん歟後に至り末松謙澄君の來示を辱ふして右樣の批評を得たるにて初て思ひ當れることあり同君の談話に我國より歐米に留學して後ち歸朝したる書生に對し西洋人の恨む所殆んど一轍に出るものは斯る書生は歸朝後音信を疎遠にして西洋より送り越す度々の手紙に答へざるの一事なりと申されたることあり是れ蓋し我邦人は文認ることを兎角に懶く思ひて短文を手輕く物し乍ら眞心を通ずるの趣を知らざるが故にて必竟は手紙をたゞ長く且つ重やかにせんとの弊に陷り易きものなれば短文にも倘ほ意を通し得るとの妙趣を覺るは當今の欠點に適中したる一の心得なるべし

思ふに此事につきては特に西洋人の習慣を羨まざる可らず其音信のまめやかにして僅かなる文辭に無限の思を凝めたゞ半枚のたよりに友情轉た濃やかなるの趣眞に掬すべきの味あり例へば我邦人の旅立して獨り其路を行くものあらんに每夜のとまりに一日の紀行を畧記して家に送る如きは甚稀なり況して各驛の休息に思まゝを走り書して心を通ずる如きは決して見ざる所ならん若し紀行を認ると云はゞ奈良の大佛に詣で日光の結搆に驚き松嶋の記しがたきに困む等のことならざらん内は多くは文を認ることなし其間の瑣事をもたゞ走り書して直に書送る等は夢にも得爲さゞるもの滔々としてこれ也然るに西洋人の斯る事に優なるたゞ少かの出來事をも其儘に記して僅かに思ふよしをも書加へ幾度となく其家に送るの風眞に言ひがたきの味あり彼の細君につらかりし氣儘のカーライルも旅行中ステーション每に狀を投じて家に送りたりと云ふこと彼の地に於ては左程に珍らしき談話にもあらざるなり左れば天氣の模樣、散步の話し、人を訪たる由の知らせ、課業仕事の有樣など只僅なることをも記して之を報じ彼方よりも亦た其近狀を認て之に答へ音信頻繁にして紙上の樂に思を通はすの工風たゞ

彼國に行れて我國に見及ばざるは眞に恨むべき者なり特に女流の如く多くは家に閉ぢ籠りて外出することの稀ならんものは切ては文の上に友情を通じて數多の朋達と交り合ふの樂あらんこと甚可なり若し然らんには先づ文かくことを懶く思ひて之を重々しくするの弊を去らざる可らず此弊を去らんには亦先づ文を長やかにのみ書くべきものと思ふの心得を棄て玉ふこと大切なり昔しマヌウチアスと申す有名の文書はわらゆる文法を心得て最て重やかに之を認めたれば當今の貴孃が一時間して書き了り得べき程の文をも大抵一と月を費してやう〳〵に得書きたりと云へる古語あり唐宋の大家が文集に遺したる色々の手紙も蓋し斯の樣の愚かしき沙汰ならんか人もし斯る心得もて文認めんとせば前に申す程の樂は容易う得て收むべきにあらず若し然らずしてたゞ輕やかに思を記るすの習慣を養ひて數度び音信を往來するの喜を得たまふやう行ひ玉はゞ女流に一個の新樂園を設くるは難きにあらずして而も其愉快は甚大ならん

○女の衣裳（二）

二種の色の衣服を用ゆる時は成べく第三種の色を多くして第一種若くは第二種の色を少くしすべて重やかなる色をもて華美なる色の裏とするの心得大切なり。

又色の照應には雙方第一種中同樣の色を含むものを合はするをよしとす例へば鼠色の地に青を合はせたる上衣ならんに若し此鼠に少々の黄色味あらんにはかの合せたる青の片にも亦た少々の黄色を含みたるをよしとするなり

色白くして容貌の赤味少き婦人は青と黄との兩色を用ゆれば色をよくして見榮宜からん由て綠色（即ち青と黄との混色）の衣服を用ひば顔に赤味をうつすべし但し綠色の効能を助る爲に僅かの薔薇色を用ゆるを好とすれども薔薇色の服を直に皮膚につくるときは皮膚の黄色の特さらに目立つものなれば綠色のポンチットに此色の線をつくるをよしとす毛色黄ろみを增すべし（但し髮の黒やかならんを望むよは不可也）

顔色の白き人には第二種の色を宜しとす故に其上衣には樺色など可ならん尤も顔に近きあたりは決して此色を用ゆ可らず凡そ如何なる色にても大抵は釣合いせを以てよく見ゆるものなれど顔又は手に近きあたりには尤も注意して照應の工合を考へざる可らず

英書にてはアウズレー（Audsley）の色合書に種々の色合を

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

説き盡せり然れど之を要するに色の合せ樣は濃淡暗明をよく平均するにあるなり此書の中に亦顏色と服色との釣合を説きたる條あり例へば顏の白き人は淡緑をよしとして濃緑を不可とすこれ濃色の白色を殺ぐことを恐るゝゆへなり又斯かる人には青色を相應とす之によりて樺色のうつり出で來るゆへなり尤も青も亦た淡色なるべしと云ふ如き類あり

●論説

○矢田部良吉君の演説（女子の敎育）筆記　（三）

其れで高等敎育を受けたる人は自分と同樣なる高等敎育を受けたる人を妻とするを好むといふ理もありますまひ。政治家が妻と共に天下の大事を議するといふことは無いに違ひない。定めて家に在ッては家族と共に食事しまた休息するに際して其の談話は多くは美術上のことゝか夜會のことゝか其の外社會百般のことでありませう。如何に政治家でも妻と共に政治の討論を爲すが如きは好まないでありませう。故に政治家の妻は夫と同樣な政治家で無ければならないといふことは無い。醫者でも朝から夜まで病理のことや藥劑のことばかり言ッては居ますまい。たのゴから別種のことがあッて朝から晩まで自分の職業の話しをして居る者は無いに違ひ無ひ。學者でも同じことで學理を説いて樂しむばかりで無くて博覽會の列品の話しとかチャリチの曲馬の話しとかまた向嶋の花見のことゝか梅がさいたら大森へ行くこともありませう。何にしても敎育のある妻の優美なる話しを聞くのは望むことであらうか學者であればとて朝から晩まで理屈を述べ立るものではい無いに違ひない。この一點からも男子の敎育と女子の敎育とは違ッて居らなければならない。

またシウトシウトメの關係は勿論親類縁者の交際といふものもまた妻の任となることであります。ソコデ特別の敎育が無ければならぬといふことがよく分りませう。時代により儒敎主義のときには其れによッて論するが必要であらうが今日これ等のことを知らぬものは無いが敎育のことを其の樣に施して居らない樣に見ゑます。私の見の狹いからか知れないがこれが私の遺憾とする所であります。女大學主義でも江川太郎左衛門主義でも夫と妻を主人と奴隷との間柄の樣にするが好いといふ主義ではいかないが今は夫婦一躰で妻は夫の爲め夫は妻の爲めに短所は相補ふといふことが段々世間に行はれむとするのきざしがあります。儒敎主義から西洋主義に移らう

といふウツリカハリの時代で女子の敎育に付ては頗る困難であります。主義がきまれば其れを規則としてなしてゆけるが今日はまださうはいかない。或る人の説によれば女子の敎育は西洋の婦人に任せてしまへ之を實施するには耶蘇敎の女宣敎師をして女學校を立てさせるがいゝと言はれましたが其の人が或る女學校の卒業式の時に演説して言ふには食物でも家具でも一切西洋の物を入れるが宜しい、おぢいさんや、おばアさんの説に隨つてはいかない。故に卒業生がよりあッて社を設けてさういふことを行ふ樣にしなければならないと言はれましたがこれは甚だ急進の説でありますが幸にして日本の女子は温良であるから其の樣な演説を聞いても害はなかッたが若し其の卒業生のおぢいさんやおばアさんが聞きましたら定めてきもをつぶすだらふと思ひます。今日は中々西洋風の食物でも容易に手を下すことは出來ませぬ。西洋の家具をもッて家を飾らふと思つても不案内であるし西洋の着物を着ることも不案内であるから容易に取りかゝることは出來ませぬ。着物などは一と揃は出來ても不案内で拵へたものだからイロドリやカタチは何だかマンザイの出來そこないの樣でをかしいから先づ西洋流は止ておからうといふ樣なとになる(未完)

〇日本婦人遊戲論　船越鼎太郎稿

第一章　本邦の婦人に遊戲を奬む

支那人は婦人の足細小なるを以て極て婀娜なりとし七八歳の頃より纏脚布と稱する布片を以て足を纏絡し其生長を妨げ彎曲馬蹄の狀をなさしむ又其指爪の甚しく長ずるを以て壯麗なりとし決して之を截除するとなく或は金屬の管を箝めて大切に保護するに至る茲を以て支那の貴婦人は足は以て步行するあたはず手は以て採握するを得ず斯る不具なる身躰も支那人の眼には雅美に見へ男子の之を慕ふ者は必ず其由縁なかる可からず古來支那にては孔孟の儒敎を貴み婦人をして万事に内氣ならしめ深窓の下に蟄居するを以て第一の女德なりとせり今や蝶よ花よと愛でられて錦繡に身を纏ふ婦女子と風雨に身を暴し徒跣土を踏む婦女子とを比較する時は甲の手

足ハ柔軟薄弱にして乙の手足ハ堅固强大なること必然なり茲にを以て支那人にハ手足細小にして蒼白色の婦人こそ万事内氣にして深窓の下に蟄居し他人と交際することもなく所謂儒敎の女徳に適ふたるもの丶如く觀へ男子の胸を焦かし心を鎔かすの容色とハなりたるなるべし漸く星霜の移るに從て婦人ハ人爲に己れの手足を不自由不具にし其作用を妨け以て深窓の下に蟄居し他人と交通することもなく万事内氣に養育せられたるを證明し男子の愛憐を買はんとするの方便とハなりたるなるへし

本邦初め隋唐と交通を開きしより以來漸く支那の文學、學術、風俗等百般の開化を輸入し儒敎の女徳亦漸く傳搬し深窓に屛塞するの風俗亦盛に行なはれたり故に婦人を尊敬し或ハ之れを稱美する辭ハ專ら深窓内に屛居して他人と交通せざると云ふ意味を含みたる支那の辭を直ちに用ひ或ハ同主義の辭を用ゆ假令ハ簾中、奥方、局、内室、令閨、閨秀、内儀、家内、箱入娘等の如し之に反して婦人を鄙下したる辭ハ深窓の下にあらさる意味の辭を用ふ假令バ野妹、荊妻、蜑、お傳馬娘等の如し斯くの如く儒敎の女徳大に我邦に行なはれたりと雖足を纏絡して彎曲ならしむるか如き身躰を損害するの風俗行なはれざるこそ幸なれ

今や吾邦專ら泰西の文明を導き社會の組織をも改め男女の交際を盛にし漸く其眞味を甞め吾人の身體、精神、及社會の變遷にも善良なる結果を來たさんことを計るの今日に當て佳人を一室内に屛塞し才女を一箱中に檻獄せしむるは得策にあらさるなと輿論の傾く所なり本邦の婦女子ハ甚き抑制を男子に蒙り孔孟の儒敎ハ屛塞沈默主義を墨守せしめたるより怯弱卑屈の性質に陷りたること茲に久し此を以て縦令輿論ハ婦女子の社會に出て丶交際を盛ならしめ社會に善良なる結果を來たさんことを望むも數千年の弊習一朝にして之れを改むること難く學者の筆頭辯舌ハ宛ら猿田彦の演舞に勝ると雖猶ほ未た深窓の牖戸を開きて女徳の南風を布く能はず豈に悲嘆の至りにあらずや諺曰く健康なる身躰にあらされバ健康なる思想を蓄ふる能はさるとかや活潑なる少年にハ活潑なる思想あり老衰したる高老には老衰したる思想あるものなり然らバ則ち一室内に屛居し一箱内に檻獄せらる丶の婦女子にハ怯弱卑屈の性質こそ望むへくして毅勇敢爲活潑なる思想を望む可んや故に毅勇敢爲活潑なる思想を養成せんとするには一室内に屛居するの惡習を改め精神を興奮し身體を活潑ならしむるの機會に

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

數々臨むにあり精神を興奮し身躰を活潑ならしむるの機會に數々臨まんとするには遊戯をなすより善きはなし

夫遊戯は戸の內外に論なく身體を運動し精神を興奮せしむるのみならず憂苦倦怠を忘れ快樂極なきに至らしむるものなり本邦の婦女子と雖精神を興奮激勵し身體を運動活潑にするの機會頻々たるに至らば所謂習性となり怯弱卑屈の性質は改まり活潑强壯の體格と毅勇敢爲の思想とを發達せしむるに至るへし若し夫れ本邦婦女子にして活潑强壯の體格と毅勇敢爲の思想とを發達したらんには社會に出てゝ其思想を吐露し或は男子の事業を補佐奬勵し或は其行狀を矯正高尙ならしめ或は之れに剛毅不抜の神心を發起せしめ以て社會をして彌々幸福ならしむるのみならず其性質を子々孫々に遺傳し以て後來の本邦人をして其體格及精神の發達を益々善良ならしむるに至るへし之れ余の敢て婦人に遊戯を奬むる所以なり

Sole Eve, associate sole, to me beyond
Campare, above all living creatures dear!
Well hast John motion'd, well thy thoughts employ'd,
How we might best fulfil the work which here
God hath assign'd us; nor of me shall pass
Unpraised; for nothing lovelier can be found
In woman than to study household good,
Ann good works in her husband to promote.

MILTON.

佳傳

○ジョン、エスレーの母

宗教社會に有名なるジョン、エスレーの母はスウサンナと申してある田舍の宣教師の妻なり十九の時此エスレー氏に嫁して十九人の子を擧げたるが其中チャーレスと云ふは聖歌をもて名あり玆に申すジョンと云へるは即ち宗教の界內に一大變動を起させたる尤も有力なる宣教師とはなれり抑も古來より世に名を著しくしたる大人學者の母は多く賢良にして子を育つるの法を得たるものあり特に教の道に於てアウガスチンの如きグレゴリーの如きコンスタンチンの如きは皆母の教化によりて遂に世に名を轟かしたる熱信の人とはなれるとあるが此のエスレーと云へるも亦た必竟母の教育宜しきを得たるがゆへに遂に彼の如き大教師とはなりたるなるべし

世に若し十九人の子を持たん程の人ならば其家族は定めて騷々しく最と亂れて治りがたきものなるべし然れどスウサンナは何れをも能く愛して自由に遊ばする傍ら嚴肅に之を統べて苟くも暴亂せしめず家に笑ひ喜ぶの聲はあれど泣て訴ふるの音はきこへず終日の樂に群れ遊びて夕氣の飯も了り時すでに五時の定刻となれば長子は尤も幼き子を伴ひ次子は其次の幼

子を伴ひ雙々相組み合ひて室に入り二人づゝして定めの詩を誦し又新約書中の章節を讀む斯て三時間が程を費したるのちは何れも亦たそれ〳〵の臥床に入りて眠るなり今年やう〳〵一歳なりと申す程の幼子も亦た別の床に入りて安眠し夜半眠覺るとも大なる聲だに立てず僅かに音させなば母は直ちに來り玉はんと信じて恐れざる氣色なり薔薇の如き顏したる子供十九人相并んで別々に寢たらん樣姿を見て母は即ち心を安んじて床に入らん其趣思ひやるだに最と樂し

スウサンナが曾て其夫に送りたる文の中に云ふ妾事毎夜御神の榮光を賛美するやう子供等に敎へて其御德を高めざれば得忍ぶまじき心地いたし侍る曾ても獨り思ひ候は我身たとひ男子にあらずよし亦宣敎の人には候はずとも心だに誠もて御神に仕へ奉らば今よりも尙ほ優りたる事どもを得爲し申さんとあり然らば他人の爲に尙あつく祈禱するとも出來又御話しする人へも彌よ温かなる眞情をもて物語り得べしと存じ侍る由て先づわが子供等に對して此覺悟のやうを取計はんと思ひつ每夜の餘暇をもて子供等へ別々に敎の話をいたし候月曜日にはモルリー火曜日にはヘッチー水曜日にはナンシー木曜日にはジョン金曜日にはパッチー土曜日にはチャーレス日曜日にはエミリーとスーケーとかく順を定めて物語いたし候」とあり其子を敎ふるの有樣現に見るが如きの思あり

其外あまたの定めを設けて最と嚴しく之を行ひ子供等をして之を守らせたり其規則のうちなりとて後に至りて子供のうち某と云へるが記したるを見る

我母は我意をもて所有罪惡難澁等の元因なりとして宗敎は神の御意を爲し我心を爲さすまじきものと信じ玉へり左れば子供等を幼きより從順溫和ならせて以て自己と他人との幸福を得さするやうに敎へ玉へり

又家内には怒聲叫聲などの聞へたることなし子供等の漸う語を出し初る比より起臥に主の祈禱を爲すやうに敎へて追々に他の短かなる祈禱文をも敎へ次に兩親の爲の祈禱を敎へ遂には聖書中の數節をも諳じさせ玉へり

又子供等は物欲しとて叫ぶとを要せず何物も皆備れりと思ふやうに取扱ひ玉ふ上に己が欲しきものは溫かに之を望むべきよしをも敎へ玉へり左れば尤も卑し氣なる婢僕どもに物を要する時だも最と鄭寧にしてどうぞ其を頂戴など申すべきやう敎へ玉へり

又子供等のうち凡そ同じき落度をもて再び叱られ打たれた

るはあらず一度爲せし落度も之を改むれば眞に温かに取扱はれて其後之を口にだも出し玉はず又從ひにきゝとにも從順せば太く賞められ母を喜ばせんとて爲したることは例令ひ其事の出來ざるとも深く滿足して受け玉へり左れば小供等は此後は何如にせば更によろしく出來べきやと樂しみ乍ら心に謀るやうとはなれり

スウサンナの取扱大抵如此なれば小兒等の之を敬し且つ愛すると甚だ切なりジョンが尚ほ少きうちに生は母の死に玉ふ前に死せずんば耐へがたしと申したるは其の趣を示すに足るの一例なるべし(未完)

○ゆりか物語　(五)

斯て後は東堂の往來いよ〳〵近くありて媚を呈すると益々醜くしゆりかの心には嘔く計りに之を忌めど母は反つて斯る取扱を否好むらん二なきものと愛でつゝ何くれとなう談らひたり左れば春もやう〳〵彌生の初早くも舊家を取片付て東堂の離座敷に移つるやう定めぬゆりかは數度び之を言ひ爭へど例の氣質もて叱り懲らさるゝのみ復た爲ん術もあらざるものから果ては涙を飲みて曲げて從ひ住なれし父の遺家を人に賣拂ひてうつり住みぬ當座はわきて主人の厚きもてなしあり其あつき程に心を冷やして過來し方の思に積もる折々は

あゝ嗚呼此末何の樣にならうやら數ふれば早や半年むかし温さんは今ま何如には暮しおるや僅に一度の外梨のつぶての音沙汰なし世は追々亂れ行て父樣の仰しやつた變遷も最早時が熟したらんよ切めては何如に身を處してと兎角の知らせもあるべきに

など獨言してなげく日もありゆりかの恨は理と云ふべし若し其實を知らざれば雙に思違のありと知るべしそも温太の出發以來先づ第一書の着したる頃は母は尚も愁の界中に沈み居たる折よてありき喜びの餘り開き見てゆりかと共に讀みたらん優の心もありけり又こと〴〵に返して賴むは君のみと申送りたる眞心もありたるとあり然るに年も暮れ行き心も寒うなりて東堂の屢ば往來するとありてよりは温太を物憂く思ふ心のやう〳〵に歸り來てゆりかの之と親しうあらんとの不平なれば夫よりは屆け來る二三の手紙を皆かくしぬゆりかより送り出す文も母の手に渡りたらん者は其儘に止め置きて飛脚に渡さず雙の音信ちの中山の關に留りて名にし應ふ坂のさねりづら人に知られで來べき便はもとあらざるべし左ればゞ温太は數送る手紙の返しあきよ恩家の近狀何如あらんと思ひ煩ふ心

切なりと云へど又思ふときはゆり子の雄々しき或は生を勵して音信すなとの教ならんかなど悟りつ果ては心を定めて音信を止めぬ事の情實れ然のみならず當時東の形勢たる長州征伐に引つゞきて鎌倉に英士官の暗殺さる武田耕雲齋兵を擧るなど不容易の報道集り來て民心洶々たるの折なれば身もまた奔走周旋して志を成すの策に忙れしく終には彼此に便すべき方をも失ひたると今の世の便利に比らべては憾多きことと云ふべし

母は東堂の人と爲りを見誤りて又となき親切ものと思へばゆりかを之に妻あれせなば末始終安心なり娘にも亦幸ぞと獨り心にゆるすものから東堂も亦底意を現れし早や本願の達したらんやう祝ひ居たるが笑止あれ然るに人生の定めがたきは實に浮雲かあ今日此頃までも健かなりけるかの母は或日突然として急死しぬ生來酒をたしみて女に似氣なく强飲するともありけるが東堂の許に移りてよりは特更に厭慮なう飲み過したり其毒全身にわだかまりて斯る頓かのとありと醫師の申すは理と云へど流石がはゆりかが恩愛の情なかく〳〵に理解もて治め得べきよあらず父を失へる身の今また母を取去られて身邊にたゞ厭惡すべき男子なり思ひ遣るだに憫れむべき成り行きなり

されどゆりかは屹と心を定めてそれ〴〵の處置を爲し了り獨り密かに思案するやう彼の父の教へ玉へる三人のうち今ま門戶を張りて子弟を教ゆる泥舟ぬしは氣質大きやかにして物事に拘つらひ玉はざるより御氣の毒にも父の命に違ひてあの大失策を爲し玉ひしかバ自ら愧ぢて往來もうとうなりぬれど父逝き玉ひてより彼此との御世話は昔しの事を思ひての誠ならん東堂なんどの僞而非信切とは並へて見べきものよあらず特にその兩親も居まして妾の事を思ひ玉ふ心も知れバ此家にかく久しく獨居するは男女の間の禮にあらず押して謝絶し彼方の保護を乞れんと決心し使を秋目泥舟の許に遣れして向後の取計につき東堂ぬしとも御合談を得たう存候へば御都合つき次第早速御光來を祈り度とは申しつかれしぬ

暫くして泥舟飄々として出來りゆりかの志を聞て歎息しなにさまよきに計ひ申さんと約して偖て東堂を召びて三人相談するよ東堂は何如にもしてゆりかを我家に止めんとすれど本懷容易には得て口に出さず例の婉曲辨もて連りに述立る樣然し泥舟足下の御宅は近來子弟の御出入も盛んなるにつけては自ら騷しうならんゆりさまのれ氣質にれ御氣の毒のと

と思はるゝに况して足下の御兩親もおれバお心置などありては成らず拙者の離家は軒を別にして斯う離れてあれバ御氣遣もなく閑靜で宜しからんゆり樣然思し召さずや

有がたうは御座いますれど兎角に氣の結ぼれ勝なれバ御子供衆の多く居ますさんが反て心の保養とも成り特に母と二人住ひたるお家と思へば昔のとの忍ばれて忘るゝ間も候はず願うは異なる家に移りて切ては思を散らし度存じまする久々の御厄介まことに御禮の述べやうも御座いませんが

イヤ然し御母堂さまの御言葉もありかたく御厭慮には及びません矢張御住居ありては…………

泥舟むつとして　東堂、ゆり樣の御心次第にするが好からうジヤないか特に足下と二人でお出の事を厭ひなさるは尤ものとジヤ私もまだ獨身と云つても兩親があるから安心と云ふもの左樣決定しやう／＼

淡泊なる申分に復と言ひ出る言葉もなく流石の東堂も曲て之に從ひぬ然らば七日丈は御止りあるべしとの事尤の儀なれば其夜泥舟の母親來り代りてゆりかに附き添ひ何くれとなう介抱しぬ既に其日となればゆりかは厚く禮を述べて秋目の家に移り質朴なる老人を相手にして樂しからぬ月日を送るうち泥舟の磊落にして氣をきなきに心も落居て時々は學事を語り合ふに謹直の德、讀書の力等は或は温太に劣りやすべしたゞ其見識に至りては之に優る所ありて意外の卓論多し諸共に洋書を讀みて西洋文明の摸樣を窺ひ心事時流の風習に制されざれば意氣の相投するとも亦自ら早く氣の散じがたき遊離香の心も此頃はやゝ面白うなりぬと申す不幸の人には實に幸の運なるべし

●寄書

○妹と脊鏡を讀む(三)

湯島三組町　石橋忍月

從來日本の小説家夢の塲を寫す甚だ分明にして恰も悟時に於て發現する如く毫も奇異謬誤なし夫れ夢は半眠の時に在りて決して熟睡の時に非ず是れ熟睡の時ハ腦の働き全く停止し即ち求心性神經の興奮を失却し思考知識感覺を欠くに原くなり之に反し半眠の時は腦も亦た半運動をなし不完全ながらも外物を感覺するの官能あり故に母の胎内よりヲギヤの產聲を發し此世に出顯して以來一度見聞したる事か或ハ思想に浮びし事が腦中の扣所より飛び出し片足の運動をなすゆへ夢も亦片足の事實にして山かと思へハ川日本かと思へハ歐羅巴奇怪至

極首尾の合はぬものなり朧氏の首卷に於て夢を寫す故と首尾照應の合ぬ樣にこしらへられ流石生理上の原理より推測されたる者と覺ゆ故に從來の小説と比較すれば優ること万々なりと雖も其夢みし人の(水澤)母並におつじの寫眞と祖父の手紙とを机上に置きしを説き以て暗に夢みたるの原因となすは徒らに巧に流れて實を失するの憾あり何となれば夢は前説の如く腦中に潛伏したる者反射的作用に由て始て發現する者故之を夢みると夢みざるとは決して之を思ふとの深淺と時日の遠近とに關せざるなり故に左程に思はぬとも夢みる事あり亦十年廿年も前に一度見聞し今ではスッカリ忘れて居たる樣なこととをも夢みる事あり是を以て之を觀れば夢に見る程そなたを思ふとの言ひ艸は思ひの切なるを表するの証據にはあらず鐵筆畵を以てお辻の肖顏を寫せしも祖父の手紙を受取りしも夢みたるの原因にはあらず又夢は五臟の疲れと言ふも決して想像す可からざるとなり何となれば疲れたる時は熟睡し熟睡したる時は大腦の機能全く停止して夢みるものに非されはなり故に水澤の夢みし原因を説くには只水澤が母は辻、祖父等を一度見たるとあるか或は思考に浮びしとあるかを説にて足れり附て云ふ難者ありて水澤の母が夢にて水澤に意見するの言語は男子の言葉の樣にして女らしからずと然り成る程女の言葉には不似合なり然れども朧氏は故意に男子の言葉の樣に寫されたりと考ふ何となれば母の夢中の言は取りも直さず水澤の思想なればなり

朧氏は曰く妻を擇ぶに二法あり性質の敬慕、藝能の敬慕是なり藝能は末なり性質は主なり」と忍を以て之を見れば藝能を主とし性質を第二とせんと欲す如何に性質の良好なるも藝能なければ敬慕するに足らざるなり裏店社會泥水社會にても性質の良好なる婦女は無にしも非ざる可し現にお辻の如きは決して性質の不良なる者には非ざるなり然れども終に破鏡に終りたるは其藝能即ち智德の敎育なきに源ぐなり夫を扶助して其片腕となるも藝能の効なり交際場裡に入りて夫を耻かしめざるも藝能の効なり家政を機用に司どり兒女を敎撫するも藝能の効あり愛の外夫に優美の快樂と多の望とを與るも藝能の効なり況や性質ある者は藝能即ち智德の敎育を俟て始て光澤ある者においてをや若朧氏の如く性質のみを敬慕せば彼シルレル氏が妻を稱して「家の柔かなる玉の緒」(Des Hauses zarte Bande.)と言ひしも恐くは其實を失するに至らんか故に忍は言んと欲す「藝能は愛の飾にして生涯の幸福を繫ぐ者なり」と

Künste und Wissenschaften sind der Liebe *Schmuck*
Und binden in Ewigkeit das süsse *Glück.*

次て述べ立つ可きハ立聞きの件なり妹と脊鏡ハ立聞きに起り立聞きに終り一篇の脊髓ハ立聞きと云ふも不可なかる可しお雪の母の立聞きあり お辻の立聞あり殊に主人公なる水澤の如きハお雪の言を奥庭に於て立聞き二婢の言をもやも屋に於て立聞きお春の言を玄關に於て立聞き僅々の間に三度の立聞きなり立聞ハ一種の省畧法にして誠に便利なる者なれども此の如く屢々用ゐられてハ忍の如き疵を見出すに拙なる者も亦た直に目に遮わり何んとなく殘念の心地ぞする今少し外に省畧の方便ハ無や玆に一美孃ありと假定せよ親族を訪ふも朋友を訪ふも芝居に行も學校に行も宴會に望むも散歩を試むるも常に同一の衣服を着して其他の衣服を着せざれバ如何なるボンヤり者にも其事目に注まり美孃の美を損するの一助とならん若し妹と脊鏡なる姫御寮にして神あらば必らず朧氏に向ひ「何時でも同じ衣物(立聞を指す)ばかし着せて……たまにや外のを着せても宜さそふなものを」との愚痴を訴へんか朧氏の機に望み狀を寫すの細かなるハ實に感服せり步行の有樣衣服の摸樣目口鼻の鹽梅髮のはへ立爪のはへぎハ等より針の目を沛すとや虱を捫ふとに至る迄極細極微穿たざるハなし

然れども彼の感覺なる者を寫すに於て疎なるが如し感覺に普通感覺あり各異感覺あり普通感覺とハ痛痒飢渇等の如き身躰中に現出ずるが如きを覺ゆるを言ひ各異感覺とハ光、響等の如き躰外若しくハ其變化に由て發現する如きを覺ゆる者なり朧氏の著ハ普通感覺に於て疎なるに非ず只各異感覺に疎なるの憾あり夫れ人々視神聽神等の敏なる者あり鈍なる者あり鈍なる者は途中にて先方より脫帽の禮を施こしても此方でハお氣か附かれず又人力車夫に目の前で聲掛られビックリ狼狽する等の事あり、敏なる者ハ露滴の艸上より落ち居るを見て已に人が通行せしを知り森中の道を通りて其樹葉の落ち振り足跡の模樣等を見て如何なる馬が何匹何れの方向に向て行しを曉る者あり(印度の昔話しを引用す)希くハ朧氏よ其外貌、思想等の細微なる樣を寫すと共に亦各異感覺の撿査も致されよ此の如く非難し來らバ人或ハ其評の酷に過ぐるを譏らん然れとも其の酷なるハ此の書の拔羣なるに由るなり此著若し平凡なれバ誰れか多數の時間と多數の勞力とを費やして批評する馬鹿者あらんや忍は此の著の卓絶なると有益なるとを愛するに由り山鳥の尾のなか〳〵しき文を綴りて怨を買ふ蓋し物ずきに非らざるなり唐の風流人言へるあり美人多くハ薄命と忍

も亦た此句調を學びて言はんとす「好著多くは貶毀を受く」と朧氏幸に之を諒せよ

○じやがたら文

在横濱　伊藤米二郎

今を去る寛永十六年の昔し紅毛國も蠻國に類ひせし水土なれはその種子日本の種子に混雜すべからずとて無情にも遠島の制出る所となり平戸長崎に在りし紅毛血脉のともから咬𠺕吧へ放流せらるゝそが土人の内長崎某の町家の女子にして父は紅毛人にて母方のよしみあるがもとに養はれ居たりしが人にすぐれてみめかたちうるはしく且手習草文をも怠らすきはめてさかしきこゝろばへありしが此年十四歳にして可憐同じく咬𠺕吧へ流されたり玆に同女子が三千餘里の遠つ嶋より故郷を戀るの餘りに幼な友たちのもとへ送り越れたる文の一篇をつけて以て貴社によすこは長崎夜話草といふふるき文の内よりいと哀れにおもほへぬる餘まりにぬきかきして寫つしをきたり世に女學雜誌の種ともなりなは紙上よもとゝめて同女子が薄命のほどを我等と共に追福し長く愛讀あれかし

千はやふる神無月とようらめしの嵐やまだ宵月の空もこゝろもうちくもり時雨とゝもにふる里を出しその日をかきりとなし又ふみも見じあし原の浦路はるかにへたゝれとかよふ心のわくれぬは

おもひやるやまとの道のはるけきも
ゆめにまちへてこえぬ夜ぞなき

御ゆかしさのまゝ腰れかき付まいらせ候前業とはゆながらかゝるうき世にかひなき命ながらへゆさむよりはたゝ世になき身となりしんいかにうれしからましをたまくへはあの世界にむまれきてこの身となれるとし月をかそふれは十とせあまり四とせがほどこそおぼへしにかくうらめしき遠き夷の嶋にながされつゝきのふけふとおもひながらはや三とせの春もすぎけふは水月朔日また東空におすは出船と人の聞えつるにせめて筆の跡してもとぞんしなみたながら硯にむかひまいらせいまだ夜ふかきほどにていたふくらけれはともし火すごくとかゝけつゝおもひ出るとともかきつたへるに此文うらやましくも古郷に歸よと思ば我文ながらありしなげにものかなしくて

水くきのあとはなみたにかきくれて
むかしをいかに人の見ましや

はつかしながら筆にまかせまいらせそこもとなの御文とにたゐんまんとぞんしまいらせ候まつくたつゝかなくたざなされつ

よしめてたくそんしまゐらせ候さて〳〵そこもとの御文くりかへし見まゐらせ候へハ志ほ〳〵御なつかしさ御すいもしなされくださるべく候わか身ハいまにつれなきいのちにてながらへをりまゐらせ候いつのとき日より日本を出まゐらせ候とやいまはさだかよもわきまへかたふこれ志のとし月にハなぞらひかたくたゞよるひるとなくふるさとのことつかのまもわすれやらずおもひなぐさむひまも御ざなく候たま〳〵ふるさとにて見申たるものにおなじものとてハ月日のひかりばかりころそこもとにかはらず候ゆゑひるは日の出るかたをながめ夜は月の出るかたを打ながめ袖のかはく間も御ざなく候かゝる憂世にながらひてかへらぬむかしをこひしやとのみおもはんよりたゞ此世になき身ともがなとこそいのりまゐらせ候へさりながら又かちかへしれもひかへせハ世をも人をもうらむべきにてハ御ざなく候幾萬の人か此世にむまれきたる中に我身いかなれハ異國の人の子とむまれ出たる事も前の世のむくひなりてころとおもひまゐらせ候志からば今さら世をも人をもうらみ申ましき事にて御ざ候もにすむ虫のわれからとねをこそなかめ世をハ恨みしと二條の后もつらねさせ給ひしと承り候へハいさゝか世をも人をも恨み申さすわれからとおもふより外ハ御座なく候(未完)

○女學校教員諸君に一言し併せて女子に動植物學をすゝめ參らす

駿台　芙蓉軒稿

近時女學の盛隆なる其勢駟馬と云はんか流水と申さんか實に潮瀾の勢を以て明治社會に浸入し或は交際會となり或は束髪會となりあるひは踏舞筵に顯はれ或は職工場に發し其發する所皆舊を離れて新に就き昔を去りて今を學はざるはなく就中女學校の如きは全國中既に百を以て算ふべく行く處として字を解せざるの女子なく遇ふ所として新を談ぜざる婦人なし吾儕不肖と雖も亦日本の人民なり我同胞姉妹の權利を重んずる者なり即ち女學の擴張女子の教育を主張するものなり今や斯くの如く朝に某會の會合を聞き夕に某女學校の設立を見又同胞姉妹が當雜誌に寄する所の名論卓説を一讀するに至りては豈諸姉の才識精神の進歩に驚かさるを得ざらんや

東洋の偏見に云ふ女は教ゆべからずとこれ泰西學者の嘲笑する處なり素より泰西諸國に於ても男女智識の優劣に付ては甲論し乙駁し其何れか眞なるを判知する能はずと雖ども要するに其の智力に於て非常なる懸隔はあらざるなり試みに見よナポレオンの母アルノルド公の母マダムローランド○ジョン、デアーク○ミッセス、フーセット、の如き實に政界に文苑に教育

に其名を轟かしたる者今日に至る迄擧げて數ふべからずこれ其才能の練磨に依て其優弱なる氣志の剛强なる男子に劣らざる證據となすに足る我同胞諸姉よ諸姉は天下の一人ならずや諸姉は男子と同じく社會の脉面を組織せるに非ずや諸姉は果して才力なきか諸姉は果して敎ゆべからさるの人か某會に其意見を陳述せしは某孃なり某校に文を鬪かはせしは某女なり嗚呼我同胞姉妹を敎ゆべからずとなすか决して然るの理由を知る能はざるなりこれ敎へざるによりて此言あり學はざるが故よ此の說あり是に於てか有志家四方に起り奔走經營女學の擴張に從事し女學校の設立を計る吾國既に此の有樣を爲せり諸姉の女權を張るは今日なり諸姉が東洋の女風を改亙すべきも今日なり余が其他諸姉に望む處實に多しといへどもこればらく他日に讓り今一言を敎師諸君に呈せんとす

女學校敎員諸君よ諸君は絕世の卓識と拔山の精神を以て夙に女子の敎育に從事し玉ふ事は吾儕の萬謝して止まざる處なり然れども吾儕も聊か女學に心を用ゆるものから自ら默坐するに忍びす一言を呈せんとす諸君の寬大幸に不敬を恕せ元來敎育と申せば諸君の知り玉ふ如く家庭敎育あり家事經濟あり家內衞生あり其他物理、化學、天文、地理、倫理、心理、の諸學科なれどもこれらは必竟其の方法のみ其極結の目的を尋ぬれば各人其天授の性を發育すると云ふに過ぎす女子の敎育に於ても其女子が天然の性を發達撫育さすることそ敎育の最大目的と云はさるべからずそも女子には日用なすべきと隨分多からん然れども家庭敎育の重大なるにはしかざるなり而して家庭敎育中にも種々雜多よして或は記臆の力を養ひ忍耐の精神を起さしむる如きは其尤も大切なる所なれど觀察の念を增さしめ注意の力を加ふる如きは重要中の重要なる所なるべしニウートンの引力ガリレヲの振器の發明フランクリンの電氣に於ける皆な一の注意より得たるに外ならず此の注意の如何によりて其業の成否を卜するとを得べし然れば泰西諸國の人士が能く事物に注意するの周密なるは實に驚く所にして我國人の注意觀察の力に乏しきは吾儕の常に憂ふる所なり諸君にして學術の振起を欲するか事業の盛昌を望むか必ずこの觀察注意の力を養ふ事を務めざるべからずこれ實に今日吾國人の欠點にして殊に家庭の敎育に望む處のものなり

然れども吾儕はあながち女子に哲學の深理を敎へよ學術の妙奥を授けよと云ふにあらず唯た女子に適するの學課を選定せられ觀察注意の二力を發達せしむることを望むなりそれ女性

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

に適せるの學課とは果して何ぞ觀察注意の力を養成するの學科は如何と問ふに余は動植物學に勝るものあらじと信ずるなり何となれば動植物學ハ觀察注意を要する學たりかつ高尚にして女性に尤も適するの學なると人の許す處なりまた女性のこれを好むもの多く又此學に秀づる者多し是を以て見れば別に理證を要するに及ばざるなり

嗚呼教員諸君よ諸君は女性の教育に從事せらるゝか必ず其大成を望み玉ふならめ苟も其大成を望み玉はんか何ぞ其好む所に從ひその適する處の業を授けざるや斯く申さば諸君は或は云はん吾儕既にこれを教授し居れり何ぞ君の言を待たんと成るほど我邦二三の學校に於て教課書にこれを見ると雖も未だその結果にこれを見ざるなりこれ果して何によるか生徒の惰慢か將又教授の宜しきを得ざる所以か吾儕之れを知らずと雖も我邦人の如斯學科を意に止めざる實に慨嘆に堪へざるなりこの恢復をなす者はたれぞ後來吾國に女流の學術家を起し事業家を生ぜしむる者は誰ぞ只今日女性の教育に從事せらるる教員諸君すなはち是なり故に吾儕は今ま諸君に訴る如斯し然れども女子の勉勵なくば亦决して此望みを達するあたはざるなり

● 新報

○男女相擇の說　前の號々に求婚の廣告、結婚の媒妁、など云へる小話を揭げたるに付て尙ほ思出すことあり去年暮の比西村茂樹君が學士會院の講義に於て男女相擇の說を演述あらんとする旨新聞紙上の廣告に見へたれば吾社員は其日講塲に參りて傍聽せんとしたるが此は元來演者の補員として出席あるやうの定なりしかば當日は終に同君の演說なかりき其次の會にも亦同樣にて他の演題につきて同君の講話もありしと聞き此頃編者が同君を訪ひたる節その故を問ひ申せしに右は原稿の儘會院の筆記錄へ廻されたれば遠からず出版あるべし最早演述は爲し玉はざるべしとぞ由て右說の大意を承るに凡そ男女自ら相擇むと申すは元來高尚の行にあらず動物を見るに雌雄牝牡勝手氣儘に相合ふ如し野蠻未開の民を見るに亦た自由に相配するものあり我國下等社會の有樣を窺ふに大抵は男女相擇むなり吾家に召使ふ婢僕の仲間も亦多くは相求るの類とす而して其の交を見るに末永う睦み合ひて所云る琴瑟和樂すると云ふの佳境に至るは甚だ稀なり由て思ふに夫婦相擇むの事は元と高尚の風習にあらず亦た親密を久うすべき手段にもあらず支那の歴史によりて之を徵するに元來は男女相擇みた

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

れども其風の亂れて俗の治らざるを以て聖人父母之を擇むの禮を制したるなり凡そ男女の血氣盛んなるや其衣服を撰擇して各その適する所をだも知らず之を何如にして一生の匹偶を認定するの經驗あらん寧ろ之をその父母に托して其の擇ぶ所に任ずるに如かず」とあり全文は遠からず會院の筆記錄中に入りて出版さるべし其時女學雜誌にも亦之を轉載すべき承諾を得たれば近くに讀者の覽に供ふべし素と時論と相違する所多きやうに思はるれば讀者に兎角の批評もあるべし吾人も亦た其際卑考するまゝを述ぶべし但だ右說は何日頃に演說あるべきやなど問合さるゝ人あるに付き一言するもの也

○京都看病婦學校　設立の事は本誌第二十六七の兩號に記るして其美擧ある由をも述べたるが其後追々に寄附金もありまたかの米國の女敎師も來着ありたるが故に近々いよ〳〵設立を見るに至るべし。附て此頃某婦人の名を以て金二圓二十錢を弊社に托し右校設備の入費中へ寄附ありたり

○東京慈善醫院設立　曩きに在東京の大醫數名協力して東京有志共立病院規模の擴張を計り井上伯に上申せしに同伯の盡力により婦人慈善會より右擴張の儀を我　皇后陛下に奏請する事になりたりしが　陛下も此の擧を御嘉納ありて遂に同院を　陛下眷顧の下に置かせ賜ふ旨御沙汰ありて東京慈善醫院とせられ一品親王有栖川御息所を該院の幹事長に山縣、松方、大山、榎本、佐々木、鍋島、長岡、樺山、毛利、戸田の諸夫人を幹事に石黒、池田、佐藤、橋本、緒方、長谷川、大澤の諸大醫を商議醫員に高木軍醫總監を院長に仰付らるゝ旨御沙汰ありたり

○東髮會　同會の幹事は從來渡邊鼎、和崎義路の兩君なりしが前號にも記したる如く今度渡邊君洋行に付て編者は其欠を補ひて同會の幹事となり且つ弊社內に會の事務所を置ことゝ定めたり。又渡邊君は彌よ來月一日出發ありて先づ米國へ趣かる半年の後は英國へ航して三年間留學あるよし束髮の風は勿論女風物躰のことに關して折々報告あるべき由に付其都度本誌上に掲載すべし

○景山英子の傳(前號の續き)　英子は斯て大坂に出でたるが時に自由黨の總理板垣氏亦此に在り女史乃ち之に就て其志を述しに板垣氏も大に其志しを憫れみ爲めに大和の豪農土倉庄三郎氏に圖り學資を出して學術を修めしむることにせられたり是に於てか女史は大に喜び直に東京に上りて嘗て自由新聞の記者たりし有名の女丈夫富井女史と居を共にし築地の某女學校に通學して日夜英書を攻究せしが幾許もなくして學業大

いに進歩したりと云へり此比の事なりき女史一日自から思へらく今日の女學校なるものハ多くハ男子の管理する處にして其の教育太だ不完全なり宜しく男子の管轄を脱したる獨立の一女學校を創設し女子修學の道を開くべしと乃ち郷里及び其他の地方ゟ於て同志の女子を募り又神奈川縣下に於て其の資金を募るの際偶ま大井等の諸氏大坂事件の謀議あり英子の用ゆべきを知りて其秘密通信等のことを擔當せしめたるを以て遂に此事に奔走し今日の如く牢獄に繋がるゝに至りしと云ふ女史常に曰く今日の社會に在りて徒に學識上より男子と同權を得んことを望むも勢ひ行ハるべきにあらず宜しく先づ佛國若しくハ魯國の烈女に倣らひ驚天動地の一大活劇を演して社會の女子に對する感情を進化せしむべし妾ハ誓て其の首唱たらんと其の壯士を率ゐて長崎に赴くに至りたるハ蓋し此の言を踐めるものか又嘗て鹿鳴館の門外を過ぎ偶ま夜會の有樣を觀て坐に社會の不平均なるを思ひ知らず識らず慷慨之れを久うし路人の怪しむ所となりしと云へり女史人となり洒落にして小節に拘泥せず而して詩を賦し月琴を彈んずる等亦尋常人に超絶せり容貌ハ白皙にして豐肥なれど敢て尋常女學生の如く粧飾を廢せず常に容儀を損せざりしと聞く亦一個の女丈夫と云ふべし(本月十五日朝野新聞)

○女醫幾澤　荻野の兩子　は我國婦人の性として男醫に治療を乞を憚るもの多く就中子宮病なとを患ふる者は其病苦を忍びて醫師の治療を請はず遂には不治の症に陷り不妊症となり生涯天授の幸福を受くる能はざるを歎じ熱心と勉勵とを以て早く醫學に志ざし苦學多年遂に卒業の榮を取り湯島に於て開業せられしが同所にては手狹に付き此度下谷西黑門町廿二番地に轉せられ專ら婦人病者を治療せらるゝよし世上の諸姉もし男醫に憚る處あらば右兩氏に付て治を請はれん事を老婆心を以てこれを婦人病者に報ず(駒込古市靜子報)

○女學校設立の計畫　本派本願寺は其普通教校の傍らに一大女學校を建築して女子の教育を盛にせんと欲する計畫あるよしなるが其資本金募集の方法を聞しに假りに同寺の門徒ゟ百萬戶と定め一戶に付て一日金二厘づゝを喜捨せしめ廿四ヶ月積置き此に十萬餘金を得て其設置に着手するなりと云へり

○海軍々人結婚條例　は遲くとも來る三月頃迄には發布せられ陸軍々人結婚條例の如く下士をして適當の金圓もしくは之れに適する丈けの公債證書株券等を所轄廳へ預け置かしむるなどの事なきも配偶の年齡教育等は極々精細に調査せらるゝとか云ふ事なり

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌社

第四回點取文題

日本婦人歎

右は日本當今の婦女が蒙る數多の束縛、困苦、不自由、等を數へ成るべく實際の儘を文章につゞりたる懇答を要するものにて答文は來る三月十日迄に本社に寄送あらんことを乞ふ右日限后に到着するものは乍遺憾點撿の中に收めず且つ答文は審査の上優劣を定め甲乙丙の三點を得る者には各左の賞酬を呈す

甲點者　女學雜誌　三十冊　無代呈上
乙點者　同　二十冊　同
丙點者　同　十冊　同

○通信募集の事

本誌上に各女學校の景況を一々細録仕度兼て其道の探報は致候へども何分手廻りかね候處も有之遺憾不尠候に付今度一女學校に付一人宛通信を辱ふすべき仁を相定め度存候相應の報酬とては致兼候へども當分女學雜誌を毎號一部宛贈呈し尚ほ特別に有益なる報告を得たる節は格別の御報酬可致候因て各女學校中有志の御方は至急御申越被下度候尤も同校より二人以上の御申越有之候節は其中の御一人にのみ委頼可致存候也

○書籍取次の事

弊社は看客の便利を圖り凡そ女學に關係ある書籍にして東京府下の書肆中にて出版したる者は一切無料にて取次郵送可仕候依て右注文の方は書名と出版者の宿所姓名とに合せて定價の金員を送附あるへし尤も大抵は其內にて郵送賃を辨じ申すとも雖も大部の書は別に郵賃を請求可致候（但し女學外の書籍とも雖も時宜により右様の取次可仕候也）

○書籍出版の事

弊社は女學に關係ある書籍を著作し玉ふ方々の便利を圖り適當の方法を以て其出版及發賣を擔任可致候尤も其方法は原稿一覽の上御相談仕候也

○雜誌切手の事

女學雜誌切手は女學雜誌五冊分より以上何冊分にても差出候四季折々の御遺物には至極適當の品と存じ候

東京新橋日吉町八番地
女學雜誌社

添註 **土佐日記俚言解** 小中村清矩校閲 佐々木弘綱註解 ○金四十錢 ○全二冊

竹取物語俚言解 佐々木弘綱先生解 ○金四十錢 ○全二冊

文話 鈴木弘恭先生著述 三大人批評幷小序 **上下** 合本（完） 定價金四十錢 郵稅六錢

此書は古事紀出雲風土記祝詞式續月本紀竹取物語空穗物語伊勢物語源氏物語枕草紙土佐日記蜻蛉日記紫式部日記更科日記十六夜日記等より撰集して本文の傍に眼目照應對句抑揚頓坐省筆等の旋を附し一目して文法を了解し易く示されたるを黒川眞頼中小村清矩田中頼庸等の卓識を以て詳細に評語を下し給ひたれば眞に本朝作文の摸範とす可き良書なり

東京本鄉區春木町三丁目十四番地　文苑堂
取次　女學雜誌社

●講談演說集第一冊再版廣告

速記叢書 **講談演說集第一冊** 定價郵稅共特別割引拾四錢●郵券代用妨げなし

●目次●緒言●漢字やぶり　帝國文科大學長外山正一君●地球の位置　帝國理科大學教授東京物理學校長寺尾壽君●節酒會を論ず　前統計院大書記官杉亨二君●社會外に道德なし　元老院議官東京學士會院會長前東京大學總理加藤弘之君

右初版賣切候に付久しく御求めに應じ難かりし處今回漸く**再版**出來候に付御注文願ひ奉り候拜具

●附言第四冊（定價郵稅共十四錢）三月迄に出版可仕候

發賣●東京日本橋通三丁目丸善書店●東京本町三丁目瑞穗屋●東京馬喰町二丁目石川治兵衞●東京神田淡路町巖々堂

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

船越鼎太郎君著

產婦小兒攝生法（新著）

一册十八錢郵送税四錢

右は產婦小兒の養生法を平易なる文章にて何方にも分り易き樣認めたる者なれども所論は一々學理に照して實際を監み專ら當今の養生法其道を盡さゝるとを敎へたり故に月經の心得より、姙娠したるか否やを知ると、出產の日期を知る法、姙娠中の養生法、產後の養生法、赤子のとりあつかひ乳を飲ませる間の養生法、母の乳を用ひずして子供を育つる法等ことごとく信切に敎へたり世の母たらん人は何卒一冊を座右に置きて最愛の牛子を誤りて取扱ひ玉ふやうのとなからんを希ふ

（出版兼發賣）　新橋日吉町八番地　女學雜誌社

第百八十三號　一月二十六日發兌

基督敎新聞

●敎報　馬琴小說の神髓

●論說

（一）基督敎證據論（有神論完結）

（二）東洋の淸敎徒を論ず（承前）

●雜錄

（一）女傑エリサベス、フライの略傳（廿五）

（二）無神論者の末路如何（完了）

●雜報及社評

●英文●廣告

（毎水曜日發刊〇一部金三錢府外郵税壹錢〇三ケ月前金郵税共金五十錢〇六ケ月同九十八錢）

東京々橋區瀧山町六番地

發行所　警醒社

驛遞局認可

發兌					
二月。	五日	十二日	十九日	廿六日	
三月。	五日	十二日	十九日	廿六日	
四月。	二日	九日	十六日	廿三日	三十日
五月。	七日	十四日	廿一日	廿八日	

定價			
一册。五錢	郵税。一錢		（但府內無郵税）
十册。四十八錢郵税。十錢			（同前）
半年分	一圓十七錢	府外は	一圓四十三錢
一年分	二圓卅四錢	府外は	二圓八十六錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記録を掲ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を掲する毎に右雜誌十部の注文を要し以上半頁分毎に十部増の割合と定む

一行	一回（廿七字詰）	前金拾錢
同	三回以上	一割引
同	六回以上	二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學に關係ある書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町巖々堂〇東京芝西久保櫻川町萬春堂〇東京神田區雉子町開々社支店〇同神田區佐柄木町東海堂〇同日本橋區新乘町良明堂〇同京橋區木挽町壹丁目萬字堂〇同本郷區元富士町盛春堂〇同本郷區春木町二丁目解明堂〇京都四條通小橋へ入澤集光堂〇同三條通東洞院西へ入クリスチアンボードО大坂備後町四丁目岡島支店〇仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部〇宮城縣仙臺大町木村文助〇尾張國名古屋本町石版舍〇橫濱住吉町四丁目角田屋貞〇東京本郷四丁目文壽堂

東京京橋區日吉町八番地

發行所　本局　女學雜誌社

持主兼編輯　巖本善治

印刷　森田□

WOMEN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.

Edited and published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku-Zasshi Office, No. 8B Hiyoshichō, Shinbashi, Tōkyō.

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎雜錄
（一）女傑エリサベス、フライの略傳（其五）（完了）
（二）無神論者の末路如何
◎雜報及社評
◎英文◎廣告
（毎水曜日發刊○一部金三錢府外郵税壹錢○三ケ月前金郵税共金五十錢○六ケ月同九十八錢）

東京々橋區瀧山町六番地
發行所 警醒社

ド
○大坂備後町四丁目岡島支店○仙臺國分町七十五番地伊勢安
雜誌部○宮城縣仙臺大町木村文助○尾張國名古屋本町石版舍
○横濱住吉町四丁目角田屋貞○東京本郷四丁目文壽堂

東京京橋區日吉町八番地
發行所 本局 女學雜誌社
持主兼編輯 巖本善治
印刷 森田豐

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

船越鼎太郎君著
産婦小兒 攝生法 (新著)
一冊十八錢郵送税四錢

右は産婦小兒の養生法を平易なる文章にて何方にも分り易き樣認めたる者なれども所論は一々學理に照して實際を監み專ら當今の養生法其道を盡さゞるとを教へたり故に月經の心得より、妊娠したるか否やを知ると、出産の日期を知る法、妊娠中の養生法、産後の養生法、赤子のとりあつかひ乳を飮ます間の養生法、母の乳を用ひずして子供を育つる法等ことごく信切に教へたり世の母たらん人は何卒一冊を座右に置きて最愛の小子を誤りて取扱ひ玉ふやうのとなからんを希ふ

(出版兼發賣) 新橋日吉町八番地 女學雜誌社

第百八十三號 一月二十六日發兌
基督教新聞
馬琴小說の神髓

● 敎報

● 論說
(一)基督敎證據論(有神論完結)
(二)東洋の淸敎徒を論ず(承前)

● 雜錄
(一)女傑エリサベス、フライの略傳(其五)
(二)無神論者の末路如何(完了)

● 雜報及社評

● 英文 ● 廣告

(每水曜日發刊○一部金三錢府外郵稅壹錢○三ヶ月前金郵稅共金五十錢○六ヶ月同九十八錢)

發行所 東京々橋區瀧山町六番地 警醒社

驛遞局認可

發兌					
二月。	五日	十二日	十九日	廿六日	
三月。	五日	十二日	十九日	廿六日	
四月。	二日	九日	十六日	廿三日	三十日
五月。	七日	十四日	廿一日	廿八日	

定價		
一冊。五錢	郵稅。一錢	(但府內無郵稅)
十冊。四十八錢	郵稅。十錢	(同前)
半年分	一圓十七錢	府外は 一圓四十三錢
一年分	二圓卅四錢	府外は 二圓八十六錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會々合等の記錄を掲ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を掲ぐる場合に右雜誌十部の注文を要し以上半頁分每に十部增の割合と定む

一行一回(廿七字詰)前金拾錢
同三回以上一割引
同六回以上二割引
十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絶す有益なる物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町巖々堂○東京芝西久保櫻川町萬春堂○東京神田區雉子町聞々社支店○同神田區佐柄木町東海堂○同日本橋區新葭町眞明堂○同京橋區木挽町壹丁目萬字堂○同本鄕區元富士町盛春堂○同本鄕區春木町二丁目解明堂○京都四條通小橋へ入澤集光堂○同三條通東洞院西へ入クリスチアンボードO大坂備後町四丁目岡島支店○仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部○宮城縣仙臺大町木村文助○尾張國名古屋本町石版舍○橫濱住吉町四丁目角田屋貞○東京本鄕四丁目文壽堂

發行所 本局 東京京橋區日吉町八番地 女學雜誌社
持主兼編輯 巖本善治
印刷 森田鼎

WOMEN'S MAGAZINE.
"JOGAKU ZASSHI."
Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.
Edited and published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku-Zasshi Office, No. 8B HIYOSHICHŌ, SHINBASHI, Tōkyō.

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY